

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月6日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467700108
法人名	社会福祉法人 聖光会
事業所名	グループホーム蒼水園
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本1250番地1 (電話) 0994-24-3100
自己評価作成日	平成29年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年11月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設している特別養護老人ホームやデイサービス施設との医療連携及び嘱託医による定期的往診、受診、並びに緊急時24時間対応の往診等により傾注し他社との差別化を図っている。それぞれのユニットは画一的な体制を築きながら、各々が独自性のあるサービスを追求しそれらの情報を共有することでスキルアップに努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ ホームは町の中心地より少し離れた高台の閑静な地区に、同法人の特別養護老人ホームや在宅福祉サービス事業所と共に設置されており、職員研修や防災訓練等は一体的に行ってサービスや運営の向上に努めている。管理者及び職員は、開設時より利用者の尊厳や人権を大切にしながら、地域との親密な関係づくりに努めており、日常の散歩や買い物時の会話、友人知人の来訪はもとより、高齢者スポーツ大会の出場や、ふるさと祭りへの作品の出展など積極的に参加し、中学生の職場体験、各種研修、施設見学、ボランティア等も積極的に受け入れている。また、災害発生時の地域との協力体制も構築されている。

○ 管理者及び職員は、相互の協力及び信頼関係が何より利用者のサービスに影響すると考えており、気軽に意見を述べ合ったり協議できる体制が築かれている。業務の改善やサービスのスキルアップについては法人全体で意欲的な取り組みがなされ、多くの研修が実施されている。勤務シフトへの配慮や、資格取得に対するバックアップ体制など働きやすい職場づくりがなされている。

○ 災害発生や防犯に対する認識は十分で、防災訓練やリアルタイムの夜間訓練、日常的に設備や備品の点検に取り組んでおり、不審者侵入時の対応など防犯対策についてもマスコミ等の事例をもとに意見交換して安全性の確保に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を意識したケアを行っている。毎月のグループホーム会議にて唱和し職員一人一人に意識付けを行っている。『ご家族や地域との関わり合い』については行事を通じて実践している。	法人の理念及び地域密着型サービスの意義を踏まえたグループホームの理念、ケアの目標「職員の意識」を、日常的に目に触れる玄関やホール、職員用トイレに掲示している。理念はグループホーム会議で研修や唱和して共有を図り、また、日常的にケアの振り返りや意見交換を実施して、利用者の気持ちを大切にしたいケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ドライブや、買い物、保育園児のふれあい会、社協主催のスポーツ大会や、併設施設での『夏祭り』『敬老会』などに参加して、地域の方々との交流を図っている。	地域の行事には案内を頂き、ふるさと祭りや高齢者スポーツ大会等に積極的に参加している。ホームの敬老会や夏祭り、バーベキュー大会には多くの地域の方々の参加があり、利用者は地域の人々との会食や談笑を楽しんでいる。日頃の散歩時に隣接の特別養護老人ホームやデイサービスの利用者や交流し、買い物や外出、通院時は地域の人々とも挨拶や会話を交わしている。幼稚園児との交流や中学生の職場体験、ボランティア等を積極的に受け入れ、日常的に農産物を頂くなど円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	学生の職場体験学習などの受け入れや、広報誌の中で認知症の知識や支援方法等を記載している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>一年に6回開催し、地域住民代表や行政の介護福祉課職員、民生委員等が参加し事業所状況や事業実施報告を行い、参加者より意見、要望などを収集し今後の施設運営に生かすようにしている。</p>	<p>会議は家族、地域住民、民生委員、町担当職員等が参加して、定期的で開催しており、ホームの現況や災害発生時の対応、ヒヤリハット等の報告がなされ、家族からの介護に関する質問や行政職員による制度の説明、地域の高齢者の情報などが出され、サービスの向上や業務の改善に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町主催の研修会、懇親会などへの参加や、運営推進会議にて現場職員の情報収集等を行っている。又、町主催の認知症初期集中支援チームに参加し意見交換等を行っている。</p>	<p>町の担当者には、運営推進会議に出席して貰うと共に、日常的に訪問や電話で介護保険や各種の高齢者福祉に関する手続き、ケアや施設運営に関する相談や意見交換を密に行い、助言指導を頂いてサービスの向上に務めている。町主催の会議や認知症ケア等の研修に積極的に参加し、管理者が認知症早期対応策の役員になっていることもあり、行政職員や他施設の職員と情報交換を行う機会も多く、協力関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月施設で行われる、身体拘束廃止委員会に担当者が参加しグループホーム会議上で研修報告を行い身体拘束の知識を深め身体拘束をしないケアを実践している。</p>	<p>身体拘束や高齢者の権利擁護・虐待防止に関する研修を、法人全体で計画的に実施すると共に、ホーム内で日常的に意見交換やケアの振り返りを行い、職員の理解を深めて拘束のないケアに取り組んでいる。マニュアルを整備し、身体拘束廃止委員会を毎月開催して不適切な言葉づかいやケアの方法などを具体的に学んでいる。昼間は居室や玄関等の施錠は行わず、見守りや声かけ、寄り添いに努めて利用者の安全の確保するなど、拘束のない自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月施設で行われる、虐待防止委員会に担当者が参加しグループホーム会議上で研修報告を行い虐待の知識を深虐待をしないケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現時点で入居者の方に必要と思われる方はいらっしゃらない。研修があった時にはグループホーム会議上で発表し理解するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約は改訂時の場合には口頭と文書にて説明を行い、納得して頂いた時には同意書を頂いて対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を年2回行い、意見、要望を聞く機会を作っている。又、ホームの玄関先に意見箱を設置している。意見要望等は会議にて検討し実施している。	利用者の思いや意見は日常会話や表情、仕草の見守りなどで把握し、家族からは日常の来訪時や運営推進会議、イベントや家族会での対話で把握に努めている。出された意見等は申し送りや「支援経過」で情報の共有を図り、グループホーム会議等で意見交換して改善に取り組んでおり、家族にも電話や来訪時の面談の際に、対応状況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のグループホーム会議にて意見、提案を述べてもらい運営の向上にむけて取り組んでいる。	管理者はかねてから職員とのコミュニケーションを密にし、日常のケアの中や、個別面談等で職員の意見や提案を聞き取り、協議して業務改善やサービス向上を図っている。内容によっては法人本部とも協議して可能な限り職員の意見が反映されるよう配慮している。勤務シフトの作成や外部研修の受講等も可能な限り職員の意向を反映させ、資格取得に対してもバックアップするなど働きやすい職場づくりに努めている	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	例年の定期昇給の他にキャリアパス制度による特別昇給を実施している。又、職員の労働意欲を高めるために人事考課制度を活用し適正な処遇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加の機会を設けて、受講後にはグループホーム会議上にて発表を行い知識を共有し各々のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者の状態や職員の状況などが整えば取り組みを行っていききたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの情報収集は難し面もあるが、ご家族や入所前に利用されていたサービス事業所等からも情報を得て、本人やご家族が安心出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から面談を行い要望などを確認し不安の無いサービス提供が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や状況、そして様々な情報等を考慮しながら、まず行うべき支援を見極めてご提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常は介助以外に、利用者の皆様と関わる時間を多くすることを心掛け歌唱やレク、料理作り等共に行う機会を大切に、手伝いを頂いた時には感謝の言葉を伝えるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康面や環境面などご本人の希望に添えているかご家族と確認しながら支援している。	/	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅やその近辺にドライブに出かけたり、お墓参りに出かけたたり、社協主催の老人スポーツ大会に参加して地域や馴染みの方々との関係が途切れないように努めている。	本人や家族、関係者から、生活歴、病歴、趣味、地域との交流状況等を聞き取り、職員は情報を共有している。家族や友人の来訪時には、ゆっくり話せるように配慮し、墓参りや買い物、美容室、一時帰宅、外食等で馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と協力して支援している。遠方の家族にはお便りで利用者の状況を伝え、電話、手紙の取り次ぎも積極的に行って関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月のクラブ活動にて一緒に折り紙を作ったり、歌を唄ったりボール遊びをしたり、年間行事の正月、豆まき、七夕や夏祭り、遠足、そば打ち等を皆で楽しんで行っている。	/	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、問い合わせや相談にいつでも対応できるようにしている。	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の生活歴や思い、望む暮らし等、人となりや考えを考慮しながら、希望を探り、家族の要望も踏まえながら支援することに努めている。	日頃の対話の中で利用者の思いや希望を把握し、また会話が困難な利用者からは、表情や仕草等のサインで意向を汲みとるように努め、理念に沿った最善のケアになるよう取り組んでいる。趣味や、得意な作業（調理の手伝いや、洗濯物たたみ、草取り等）の取り組みも、利用者の状況に配慮しながら希望に添って個別の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、入所前に利用されていたサービス事業所等から情報収集を行い、習慣、思いなどを活かした支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の思考、望み等を職員間で周知し健康状態に支障の無い状態で好きなように生活して頂く。変化等があった時には引き継ぎを行い職員全員が的確な支援を行えるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直し時にはモニタリングを行い、職員、本人、ご家族、医師などの意見等、毎月のケアカンファレンスを参考にしながら現状にあった介護計画を作成出来るように努めている。	本人・家族の希望や主治医、関係者の意見を把握し、課題の分析やケアの方法等を協議して、きめ細かな内容の介護計画を作成している。支援の実施状況を「ケアプラン計画実施表」でチェックし、「支援記録」「送り帳」等で情報を共有しており、利用者の状況の変化に対しても実状に沿ったプランに変更して、利用者が安心して回復が図れる支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態観察記録をとり、異常等があったときには検討し専門に意見を聞くなどして検討、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たな支援が必要と思われたときには関係各位との協議を行い、必要と思われるサービス提供が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園、学校との交流や消防署での救命研修、消防署立ち会いの防災訓練の施行。地域物産の販売店にての買い物を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人や、ご家族の意見、要望を尊重し、希望するかかりつけ医を決めて頂く。受診後は受診内容の記録し職員間での情報の共有が出来るよう努めている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援している。主治医や歯科医の通院や定期的な訪問診療、家族対応による専門医の受診、24時間対応等が適切に実施されて、利用者や家族の安心に繋がっている。利用者の病状や受診結果については、「支援経過」「申し送りノート」に詳細に記録し、電話等で家族にも報告して連携した対応を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は併設施設のデイサービスの看護師にバイタルチェックや傷等の処置をしてもらう。夜間緊急時には併設施設の特養の看護師に対応してもらっている。日常においても、非常時においても適切な支援が行われる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族を交えて、病院関係者と情報交換を行い、不安の無い状態で入院が出来るように努めている。退院時には医療機関より情報提供をして頂き、環境を整え、グループホームから病院に迎えに出向くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行い、重度化した場合に再度、ご家族と終末期のあり方についての話し合いを行い、医師、施設長、事務長等にご家族の意向を伝え希望に添った対応を行っている。	重度化や終末期に対する対応を重要事項説明書に定め、家族に説明し同意をもらっている。利用者が重度化した際に、再度主治医からも説明がなされ、職員や関係者、家族は十分な話し合いを繰り返しながら家族が希望する支援に取り組んでおり、これまで3件の看取りを実施している。重度化や終末期対応については外部研修にも参加してスキルアップ図り、死後の処理セット等も整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基本に対応している。救急講習を習得しGH会議で応急手当に対する知識を確認している。AEDを設置してバッテリー各員を毎日行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	等施設に併設されている各セクションと自然災害、火災、不審者侵入等の防災訓練を毎月行っている。そして、年間2回の夜間火災避難訓練を消防署立ち会いの下で実施し、地域との協力体制を確認している。	消防署と連携して、年2回隣接の事業所と協力して災害時の避難・通報・消火訓練を実施しており、消防署職員による災害に関する講話や消火器等の取扱いの研修も行われている。夜間の訓練についてはリアルタイムの19時30分から実施して昼間との相違点等を検証している。災害に対する意識は高く、事例をあげながら避難方法や経路等を日常的に話し合い、定期的に設備や備品の安全性を確認している。スプリンクラーや自動通報装置等は完備し、災害時の食料や飲料水の備蓄や卓上コンロ、ラジオ等も整備し、地域の人との協力体制も築かれている。不審者侵入など防犯に対してもサスマタを備える等、対応に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや人権に配慮し、言葉遣いや声かけなどに対応している。接遇に対しても職員同士が気に掛けながら対応している。	入所時に利用者や家族に個人情報の取扱いやプライバシー保護について説明して理解を得ている。利用者の尊厳や人格を尊重し、本人の気持ちや生活習慣等に配慮しながら、プライドを損ねるような言葉かけや対応を行わない支援に努めている。入浴や排泄、衣服の交換時には利用者の羞恥心や習慣等に細かに配慮して支援しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活における様々なご本人の思いや希望は、自己決定されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が本人の意思を尊重しながら余暇活動を支援している。各々のペースで生活して頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の選択は本人に確認をとって、希望のおしゃれをして頂く。散髪も定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食の提供は行っている。旬の物も取り入れて楽しんで頂く。皆でタケノコの皮むきや、そば打ちを行って、作る楽しさと食べる楽しさを提供出来る様に努めている。又、屋外での食事の機会も設けている。	利用者の身体状況に伴う制限や形態、好み等に配慮し、管理栄養士の助言も貰いながら、菜園で収穫した野菜や頂いた食材も活用して季節感のある食事づくりに努めている。手作りのおやつや行事食、弁当持参の外出、敬老会・クリスマス会、バーベキュー大会時の家族や地域のひととの会食など食事が楽しみなものになるよう工夫を行い、食材の下処理や後片付け等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。口腔ケアや入れ歯の消毒など利用者の状況に添って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や、食事の摂取量、食欲の確認を毎日行い、それぞれの状態を確認しながら、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行い、それぞれに合った対応を行っている。義歯の調子なども確認し合わないようであればご家族に確認して歯科医で調整して頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄間隔、状況を把握してトイレ介助を行い、自立支援を視野に入れた対応を行っている。	利用者毎に排泄パターンを把握し、食事の摂取状況や水分補給等も配慮しながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。言葉や羞恥心、不安の軽減にも細かに気遣いながら、介護用品の工夫など利用者の状態に添った支援を介護計画に反映させて改善に努めており、徐々に改善が図られるなど成果がみられている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す食材の使用や、水分摂取等に努めている。便秘気味の方には、医師に相談し薬を処方して頂くなどの対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週5回の入浴日を設け、入浴は本人の意思を確認しながら行っている。入浴剤を使用したり、温度計を使用して快適な入浴が出来るように努めている。週1回足湯の日を設けている。	週5日の個浴での入浴を基本としており、排泄の失敗等に対しては即時に清拭や入浴で清潔を保持している。利用者の好みのシャンプーや、温度、時間、入浴剤、ゆず湯等細かに配慮してゆっくり気持ち良く入浴を楽しんでもらい、皮膚疾患の手当も行なっている。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間、スタッフの変更や声掛け等を工夫して入浴への意欲を待つように努めている。入浴が利用者と職員の親密なコミュニケーションを図る場にもなっている	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室での休息は希望に応じて対応している。夜間不眠を訴えられる方には、ホールでしばらく過ごして頂くなどして安眠して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との連携をとり、本人の状態や状況に応じて処方も変化していくために、その時の状態の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や町の福祉関係の職員を交えた食事会や外食、遠足等、毎月何らかの行事を行っている。嗜好品もご家族などに声を掛けてなるべく要望にそえるよう対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	条件等があればドライブに出かけたり、地域の行事などには参加するように努めている。また併設施設への訪問、面会も行い知人や友人らと交流出来るよう職員間で連携する事で、本人の望む楽しみ事や外出の支援を手助けしている。	外出に対する利用者の意向は日頃の会話の中で把握し、健康状態や天候に配慮しながら本人の希望に沿って散歩や一時帰宅、買い物、ドライブ、地域行事の参加、花見、墓参などを家族と連携して可能な限り外出を楽しんで頂けるように支援している。ホームの行事にも外出の機会を多く企画しており、歩行困難な利用者は車椅子対応の車を活用する等、外出が楽しみになるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し管理できる方は少ない。希望があれば、ご家族と相談してトラブルの起きないように配慮しながら使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は利用者から見える範囲に設置してあり希望があれば、取り扱いが出来るように支援している。手紙やハガキもご本人に渡すようにしている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では利用者が混乱しないようにテーブル席に名前を明記してある。室内の温度管理は常に確認しながら調整している。季節の花を飾ったり、カレンダーを見やすい場所に掲示している。季節に合わせた飾り付けも行っている。	玄関や、廊下、ホールなど共用空間は余裕ある広さで、天井の壁には明り取り用の窓が設置され、異臭や室温、湿度・換気、衛生、整理整頓等に十分配慮がなされている。随所に行事の写真や季節に応じた活花や手作りの作品等が掲示され、大きな窓からは遠くの民家や田畑が望め、和やかでゆったりと寛げる環境になっている。利用者は日常的に四季を感じながら好みの場所で談笑するなど居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士と一緒に過ごせたりするソファやテーブルを置き、お茶などを楽しみながら過ごして頂く空間を作っている。	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所の歳には、本人やご家族に馴染みの物があれば持って来て頂くようお願いしている。位牌を持ち込まれたり、写真等をお部屋に飾り淋しくならないような環境作りをしている。</p>	<p>フローリングで腰高窓仕様の居室は、余裕ある広さで明るく、エアコン、ベッド、洗面台、クローゼットが利用者の動線等を考慮して設置してある。清掃等衛生面に配慮した支援に日々努めており、居室入り口には番号や絵、写真等を掲示するなど利用者が戸惑うことなく生活が営めるよう工夫している。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように使い慣れた寝具や整理棚、家族写真、小物等を自由に持ち込んで貰い、その人らしい和やかな雰囲気の間づくりの支援に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室の入り口にはご本人が分かり易いように写真付きの名札を掲示してある。トイレや御風呂場等にはPOPを使用している。トイレは夜間でも分かるように戸を開けると自動照明が点くようにしてある。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない